

2月18日（日）、暖かい陽光が降り注いだ京北では弓削地区の【春来いフェスタ】が。山国地区では講師に京都大学大学院教授の岡田先生を招聘し【地域課題学習会】が開催されました。今月号はこれらの催しを中心に伝えします！

\*なお、今月号掲載の一部画像はプライバシー保護の観点から画像処理を加えさせて頂いております。予めご了承願います。

## 弓削・春来いフェスタ

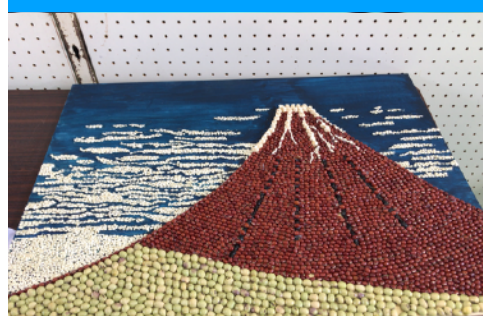
京北第三小学校にて開催された、第21回春来いフェスタ。この催しでは、地域にお住まいの皆さまによる芸術活動の展示発表が行われています。

体育館内のステージでは子ども達による歌や体操のほか、大学生のクラシック歌劇、地元和太鼓チームの演奏、地元の北桑田高校吹奏楽部の演奏が。他にも北桑会の皆様による車椅子の体験、弓削の皆さまによる作品展で構成されています。

私は時間の都合で滞在時間が短かった為、クラシックや和太鼓、吹奏楽は鑑賞できなかったのですが、作品展と子ども達の歌と体操を満喫させて頂きました。第三小学校の生徒さんによる「みつけよう 大切なもの」を聴いている時、こころに深く沁み渡るものを感じました。いい歌をありがとうございます！



第三小の生徒さんの歌唱シーン



穀物で作られた精緻な富士山



高学年の生徒さんの版画展。お上手です！

## 山国・地域課題学習会

山国自治会では、今後の地域の在り方を学ぶ“地域課題学習会”が開催されました。講師である岡田先生は経済学の観点から中山間地域の課題や解決法を研究されています。自治会館には50名超の皆様が訪れておられ、自治会役員さんも驚かれておりました。

講演の前半は近年発生した大災害の事例を用い、地域の結束の重要性（地域住民の情報や動向を知る上で“個人商店”が非常に大きな役割を果たした）や平成の大合併、加速するグローバル化がもたらす“地域経済弱体化”の実情をスライドや報道に出ることのない話を交えて論じられました。

後半は全国各地の成功事例を交え、地域の活性化は地域全体でというよりは旧村単位で考え、取り組んだ地域が多かったこと、企業誘致よりも地元製品の加工販売所の方が経済効果は寧ろ高まること等、地域で財を循環（再投資）させることが肝要と論じられていました。

一方、住民で出来ることの例として「地域の宝探し」が思わぬヒットを生む可能性があることを示され、これには地域の皆様も驚かれていました。また、質疑応答ではより突っ込んだ質問もあり、地域の皆様が今後の山国の在り方についての想いが伝わるものとなりました。



## 今月のこぼれ話

錦市場の老舗漬物屋のひとつである（株）榎伍さんに京北産の蕪が納品されています。代表取締役である宇津社長（もしやと思いい話を伺ったところ、ルーツは京北の宇津地区だそうです）によると、通常2月頃の蕪はスジが入ってしまい食感が悪くなるんだとか。でも、京北の蕪はそれがない。味も良くてお客様にも大好評とのことでした！（同店の売り上げ2位だそうです）



瑞々しく、パリっとした歯ざわりが食欲をそそります！